

きょうの紙面

振り込み窓口で阻止
原発防護服を焼却へ
電子書籍利用者7%
プロフ帳の書くコツ
大宮18戦無敗新記録
電王戦プロ負け越し

30 23 7 3 2 31



31
中国四川省で起きたM7.0地震で、死者が150人を超し被害が拡大している。

読書 89
保育園にどんな本を?
サンデー版
鯛と日本人

| | | | | |
|---------|----|------|----|-------|
| 国際 | 6 | 証券 | 12 | 13 |
| なるほどランド | 7 | 暮らし | 21 | |
| 段位に挑戦 | 9 | スポーツ | 23 | 24 25 |
| あの人に迫る | 10 | 地域 | 26 | 27 |

テレビ・ラジオ 15-18



伊藤律



松本清張

作家の松本清張が代表作「日本の黒い霧」で、共産党元幹部の伊藤律を特高警察のスパイだったなどと記述していることについて、遺族から誤りだと指摘された発行元の文芸春秋が、異例の断り書きを入れることが、遺族側への取材で分かった。遺族側は事実上の訂正とみて評価している。(森本智之)

文芸春秋社 出版から半世紀

清張代表作に「お断り」

松本清張の代表作「日本の黒い霧」上巻



作品は、戦後の混乱期に起きた事件の謎を追う全十三話のノンフィクション。一九六〇年に月刊文芸春秋で連載された。この中では伊藤が日米開戦前後、日本で活動するソ連のスパイを、特高に密告した疑いがあるなど、記述されている。ドイツ人のソルゲら二人が

伊藤律遺族「事実上の訂正」

死刑となり「ソルゲ事件」として知られる。この説は戦後の米国の公表が基になった。元特高関係者に認められる証言もあり、清張の作品などを通じて定説化した。伊藤は共産党から除名処分を受けた。渡航先の中国で二十七年間投獄。八〇年帰国したが、九年後に死亡した。

生前、一貫して事件への関与を否定したことから、没後に知人ら「名誉を回復する会」を結成。ソ連崩壊による新資料の流出など、研究が進み、特高見方が強まっていた。遺族側は「一月、文芸春秋に出版差し止めを求め、同社は今月、文庫判に二〇〇程度の断り書きを入れると説明。遺族側に提示した断り書きでは、資料の乏しさが執筆当時の時代背景を説明し「現在から見れば伊藤氏が戦前戦後の政治情勢、共産党内部の対立の中で運命を翻弄されたことは明らかです」としている。次男の淳さん(66)は「今年父が生まれて百年、党の除名から六十年。大きな一歩になった」と述べた。

TPP交渉参加決定

立場不利迫る期限

11ヵ国合意

日本の環太平洋連携協定(TPP)への交渉参加が二十日、正式に決まった。インドネシアで同日まで開かれたTPP閣僚会合で、米、加、墨、チリ、コロンビア、ペルー、オーストラリア、ニュージーランド、シンガポール、ブルネイ、マレーシア、ベトナムの十一カ国が日本の交渉入りで合意した。

今後、九十日間かかる米国の議会承認手続きが終われば、七月下旬に開かれる見通しのTPP交渉会合から日本が初めて合流できることになった。

TPPの交渉参加国



ただ日本側は遅れて参加する新規交渉参加国であり、これまでの交渉の詳細文書が見られないほか、先行参加国が合意した項目は原則として再協議できない。

関連2面

『白鳥事件 偽りの冤罪』 出版記念講演会

主催：現代史研・社会運動史研・社会運動資料センター・ちきゅう座

於：2013年4月20日 明治大学リパティタワー

◎プログラム

▼開会

出版から記念講演会に至る経過報告

由井 格（社会運動史研）

13時～

▼講演

白鳥事件の背景と「国民運動」

宮崎 学（作家）

13時15分～45分

松本清張『日本の黒い霧』の暗部を糺す

渡部富哉（著者）

13時45分～14時45分

——休憩——

14時45分～15時

絹と石油

篠田正浩（映画監督）

15時～16時

▼文藝春秋との交渉と報告

北京で父が語ったこと—伊藤律と野坂参三

伊藤 淳（伊藤律遺族）

16時～

▼質疑応答

zwh.

簡略

先日はわざわざご来社いただきありがとうございます。その折、私が申し上げたことで、ご不快な思いもされた部分もあったかと存じますが、どうかお許しください。

伊藤肆氏に対しては、中国での水年の放蕩生活を強いられた理不尽さに、私自身、同情の念を禁じ得ません。また、回想録の中で触れられた奥様への思い、ご家族のことなど、今回読み直して、あらためて胸を打たれました。

一方で、私どもは出版社として、著作物を守り、言論の自由を守ることが務めです。内容についての批判が、言論の場で行なわれることは大いに歓迎ですが、作品の一部を削除するといったことは、どうしてもできません。

松本清張という作家は、いまでも国民的作家として、多くの読者に読まれ続けています。もちろん作品については、評価も批判もあります。私も晩年の清張さんを担当し、食欲な好奇心、真相を追求する情熱、強引なほどの推理に、圧倒されました。そうしたさまざまな面をあわせたものが、清張さんの人間的魅力だと思います。読者の方にも、そうした著者の多面性を知っていただきたいと思っています。

その意味でも、「日本の黒い霧」の歴史的制約について、別紙のような「注釈」を加えた形で刊行を続けることにいたしました。

文庫版については、上巻巻末に、この「注釈」を付した改訂版を作り、出版していきます（旧版は、改訂版が出来た時点で、処分する予定です）。

全集（第三十巻）には、「注釈」を印刷したしおりを挟み込んで、出版いたします。

以上の対応について、ご理解をいただけるようお願いする次第です。

日々

二〇一三年四月十七日

文藝春秋出版総局長

村上和風

伊藤 肆 様

別紙の文章は、まだ検閲を避けていますので、誤植などは訂正する場合があります。

■作品について

「日本の黒い罫」は、月刊「文藝春秋」の一九六〇年一月号から十二月号にわたって掲載されました。戦後日本のさまざまな「奇怪な事件」の真相に、松本清張ならではの鋭い歴史観と大胆な推理を迫るうとした野心的な連載でした。

戦後の混乱、GHQによる占領、労働運動の高揚、米ソ対立から冷戦、そして朝鮮戦争の勃発など、事件の背景には、激しく揺れ動く時代がありました。その背景を徹底的に分析することで、従来とはまったく違う視点から事件を解き明かすことを試みたものです。アメリカ軍の関与、日本軍の自らの遺産、左翼運動の弾圧と過激化、米ソの諜報戦……、真犯人はそうした大きな闇を推理するところから浮かび上がってくるのではないかと。

こうした視点から、帝銀事件、下山事件、松川事件などに新しい光をあてた「日本の黒い罫」は、戦後史の謎を解明する上で、きわめて貴重な作品でした。

しかし執筆から半世紀がたち、新たな資料、事実も多く発見されてきました。それによって、松本清張の推理が改めて補強されることも、逆に歴史的背景が指摘される事もありました。

「伊藤雄」の章についても、そうした指摘があります。

作品が執筆された一九六〇年の時点で、伊藤雄は日本共産党によって「反党的反国民的実行者」として除名されていました。共産党は「彼の階級犯罪行為は一九三八年彼が最初に検挙されたとき以来、戦前戦後を通じて一貫して続けられていた」とし、ソルゲ事件について、「事件の糸口となった北林トキを流罪し」、「満鉄東京支社に勤務して、進歩的な人びと（そのなかにはソルゲ事件で処刑された尾崎秀実をよく含む）の言動までくわしく定期的に監視庁に報告した」と断定、さらに戦後も「党内部から騒動、破壊工作を一貫して行った」と断罪したのです。

当時まだ伊藤氏の所在、生死は不明で、その異様さ、背景の複雑さなど、まさに深い霧に包まれた事件でした。松本氏の作品は、この事件を、特高の弾圧と転向、共産党内の路線対立、GHQと東面冷戦といった様々な視点から推理したものです。

その後、一九八〇年に伊藤雄氏は二十七年ぶりに日本に帰国し、人びとを驚かせました。

帰国後、伊藤氏は「スパイ騒ぎ」に真っ向から反論し、ソルゲ事件についても、取調べで「アメリカから帰国したおぼろさん」について、「妙な感じがしたので趣交した」との供述をしたこと以外、一切問答を否定します。また、その後の研究家の調査によって、スパイ説を疑問視、否定する関係者の証言も明らかになってきました。さらに一九九二年、伊藤雄調査団の中心的役割を果たした野坂参三共産党名誉議長（当時）が、ソ連のスパイとして除名されるという事件も起りました。

現在から見れば伊藤氏が戦前戦後の政治情勢、共産党内部の対立の中で進命を断罪されたことは明らかです。作品を読まれる際、こうした時代的背景についても思いめぐらせてくださるようお願いいたします。

なお、下巻の平産一利氏の解説もあわせてお読みください。また、「伊藤雄評」回想録（北京團二七年）（一九九三年文藝春秋刊）、朝日新聞連載「故国の土を踏みて——伊藤雄氏の証言」（一九八〇年十二月）、産経新聞「偽りの烙印——伊藤雄スパイ騒ぎの崩壊」（一九九三年九月毎日刊）、保阪正康著「松本清張と昭和史」（二〇〇六年平凡社新書）なども、ご参照ください。

現代史にも論争勃発



松本清張の名作『スパイ』が読めなくなる!?

新たな資料の発見で歴史の定説が覆るのは、現代史においても例外ではない。誰もが知る有名作家の「傑作」に、書き換えを迫られるという事態が起きている。

作家・松本清張（1909-1992）といえは『砂の器』『点と線』などの推理小説で知られる国民作家だが、近現代史に取り組んだノンフィクション作品も有名だ。その代表作が『日本の黒い霧』である。

同作は下山事件や帝銀事件、松川事件など戦後日本で起きた迷宮入りの怪事件を題材とし、その背後にあ

る米国の謀略に切り込んだ全13話の作品だ。月刊『文藝春秋』に1960年1月から12月まで連載された後、翌61年に単行本化されて版を重ね、現在は文春文庫に上下巻で収められている。

そんな「傑作」をめぐる起きた騒動の原因は「革命を売る男・伊藤律」と題された第6話だ。主人公・伊藤律（1913-1989）の遺族が、「全くの無根拠と憶測で当局のスパイであったかのように記述されている」として、伊藤律の名誉回復と遺族の精神的苦痛を除去するために第6話の出版を取りやめるように、文藝春秋に申し入れたのだ。

松本清張は『日本の黒い霧』の中で、日本共産党政治局員だった伊藤律が1



伊藤清張（右）と革命家松本清張（左）の悲劇的命家だ。

941年に警察の取り調べで供述した内容がソルゲ事件（※）発覚の糸口になったと記述。つまり伊藤は権力のスパイとなつて、仲間を売った」とされているのだが、遺族側は「信憑性の低い資料に依拠している」と反論。その他、逮捕歴の誤りや時系列の矛盾など、数々の事実誤認があると指摘している。

伊藤は51年に中国に亡命したが、53年に党を除名されると中国の監獄に投獄され、27年間幽閉された。その間、死亡説が流れるも80年に奇跡の帰国を果たし、「ソルゲ事件で処刑された」尾崎を売るようなことをした憶えはない」と発言。9年後にその生涯を閉じた。悲劇的の革命家だ。

近年、「伊藤律スパイ説」を否定する新たな資料が発見されたことも遺族側を後押ししている。

一橋大学名誉教授の加藤哲郎氏は、07年に米国立公文書館が機密解除した資料の中から、川合貞吉という人物に関するファイルを見つけた。その資料から、川合がGHQ直属の謀略組織「キャノン機関」から月に2万円をもらって日本の共産主義者の情報やソルゲ事件の情報を米国に売っていたスパイだったことが明らかになった。この川合こそ、松本清張が依拠した資料の執筆者だったという。

「今でこそ日本の資料と外国の公文書を突き合わせて、本格的な検証ができませんが、松本清張が執筆した当時は一面的な資料に頼らざるを得なかったのでしょう」（加藤氏）

藤氏）
気になるのは『日本の黒い霧』の今後だ。同作は1話ごとに独立した構成であるが、13話がまとまってひとつの作品となっている。遺族側が主張するように、第6話だけ削除するにも出版社の判断では難しく、著作権者である松本清張の遺族の了解が必要となる。

伊藤の遺族側は「交渉の経緯は4月15日に開く記者会見で明らかにします」（伊藤律の名誉回復する会代表・渡部富哉氏）と回答。一方の文春側は『日本の黒い霧』は、戦後史の謎を解明する上で、極めて貴重な視点を提示した名著です。ご指摘に対しては対応を誠実に検討し、話し合いを続けている最中であり、現時点でコメントは差し控えさせていただきます」（文藝春秋出版総局長・村上和宏氏）と答えた。

いずれにしても、歴史の真実が明らかにされる解決を望みたい。

「スパイとされた男」の遺族が新資料の後押しで文藝春秋に抗議

※ソ連のスパイ組織が日本国内で諜報活動を行っていたとして、1941年から42年にかけてその構成員が逮捕された。リーダーであるリチャード・ソルゲと元朝日新聞記者の尾崎秀実が死刑にされた。





K10039385111_1304160637_1304160649.mp4

作家・松本清張のノンフィクションの代表作「日本の黒い霧」の中で、スパイ事件のいわゆる「ゾルゲ事件」の端緒となる情報を警察に流したと記述された男性の遺族が会見を開き、「新たな証拠から作品で記述された説は覆っている」として、出版社に内容の訂正を求めていることを明らかにしました。

都内で会見を開いたのは、終戦直後の日本共産党の元最高幹部、伊藤律氏の次男の淳氏です。

松本清張はノンフィクション作品「日本の黒い霧」の中で、昭和16年に摘発されたスパイ事件「ゾルゲ事件」で、伊藤律氏が事件に関係した人物の情報を特高警察に流したことが摘発の端緒となったと記述しています。

これについて、淳氏らは、「海外で新たな文書が見つかったほか、特高警察の関係者が否定する証言もしており、作品で記述された説は覆っている」と述べ、出版元の文藝春秋社に内容の訂正を求めていることを明らかにしました。

文藝春秋社は、「『日本の黒い霧』は、戦後史の謎を解明するうえで、極めて貴重な視点を提示した名著です。ただ、清張が執筆した当時は資料の制約もあり、その後、新しい事実も明らかになったことから、こうした経緯を具体的に説明する文章を付けて刊行を続けていくつもりです」と話しています。

ゾルゲ事件とは

スパイ事件の「ゾルゲ事件」では、ドイツの新聞社の日本特派員、リヒャルト・ゾルゲや近衛文麿元総理大臣のブレーンで、元新聞記者の尾崎秀実らが日本の政治や軍事の機密情報などを旧ソ連に漏らしたとして、昭和16年スパイ容疑で逮捕され、ゾルゲと尾崎は死刑となりました。

ゾルゲ事件を巡っては、アメリカの陸軍省が昭和24年に日本共産党の最高幹部の1人だった伊藤律氏が「事件につながる関係者を証言した」と発表したほか、昭和28年に日本共産党が伊藤氏を当局のスパイだとして除名したことなどから、伊藤氏の証言が事件の端緒となったとする説が長年定着し

てきました。

また、作家の松本清張が、昭和36年に出版したノンフィクションの代表作「日本の黒い霧」の中で「伊藤律が当局に情報提供したことは事実であると見ていい」「ゾルゲ・尾崎検挙のきっかけが伊藤律にあったことは疑いの余地がない」などと記述しています。

しかし、ゾルゲ事件の研究者によりますと、1990年代以降、ロシアやアメリカで、伊藤氏の証言よりも前に捜査が始まっていたことを示す公文書が発見されているほか、特高警察の関係者が否定する証言をしているということで、これまでの通説を否定する見方が有力となっています。

【関連ニュース】

・ [「日本の黒い霧」注釈付け改訂版出版へ](#) (4月20日 21時33分)

[自動検索](#)

[社会ニュース一覧](#)

[科学・医療ニュース一覧](#)

[政治ニュース一覧](#)

[経済ニュース一覧](#)

[国際ニュース一覧](#)

[スポーツニュース一覧](#)

[文化・エンタメニュース一覧](#)

[動画一覧](#)

- [ご意見・お問い合わせ](#)
- [NHKにおける個人情報保護について](#)
- [放送番組と著作権](#)
- [NHK オンライン利用上の注意](#)

 Copyright NHK (Japan Broadcasting Corporation) All rights reserved.

許可なく転載することを禁じます。

このページは受信料で制作しています。

[このページの先頭へ](#)



作家・松本清張の作品「日本の黒い霧」の中で、スパイ事件のいわゆる「ゾルゲ事件」の端緒となる情報を警察に流したと描かれている男性について、出版社が、記述内容を否定する証言も明らかになっているなどとする注釈を付けた作品の改訂版を出版することになりました。

松本清張のノンフィクションの代表作「日本の黒い霧」では、日本共産党の元最高幹部、伊藤律氏が、昭和16年に起きたスパイ事件「ゾルゲ事件」の摘発の端緒となる情報を特高警察に流したと記述されていますが、伊藤氏の遺族側が、事実関係を否定する証言が出ていることなどを理由に、出版元の文藝春秋に内容の訂正を求めています。

伊藤氏の次男の淳氏によりますと、文藝春秋側から、作品で記述された説を疑問視、否定する関係者の証言も明らかになっていることや、伊藤氏自身も関与を否定していたという注釈を付けた改訂版を出版したいとする打診を受けたということです。

淳氏は、20日に都内で行った講演で「作品に注釈を加えることを評価して受け入れたい。父の名誉回復のために活動してくれた人たちに感謝したい」と述べました。

「日本の黒い霧」は、昭和36年の出版から半世紀以上を経て、改訂版が出版されることになりました。

【関連ニュース】

- ・ [松本清張「日本の黒い霧」の訂正求める](#) (4月16日 11時22分)

自動検索

[社会ニュース一覧](#)

[科学・医療ニュース一覧](#)

[政治ニュース一覧](#)

[経済ニュース一覧](#)

[国際ニュース一覧](#)

[スポーツニュース一覧](#)

[文化・エンタメニュース一覧](#)

伊藤律スパイ説に注釈＝「日本の黒い霧」否定証言－文芸春秋

松本清張が「日本の黒い霧」（1961年出版）で、元日本共産党幹部の伊藤律をスパイだったとした記述について、出版元の文芸春秋が「否定する証言がある」との注釈を入れる方向で検討していることが15日、同社などへの取材で分かった。伊藤の遺族らは「スパイ説は近年の研究などでも否定されており、名誉回復の大きな一歩だ」と評価している。

この作品では、太平洋戦争開戦直前の1941年に旧ソ連スパイのリヒャルト・ゾルゲや、元新聞記者の尾崎秀実らが逮捕された「ゾルゲ事件」について、伊藤がグループの情報を警察当局に提供した疑いがあるなどと指摘されていた。（2013/04/15-21:56）

Ads by Google

- リサイクルトナー専門店 toner-p.com
- 業界最安値に挑戦。専門店ならではの 納得価格。1年間保証付き・送料無料。
- ロシア周遊ツアー www.club-t.com
- エルミタージュ美術館やクレムリンなど、みどころが満載！クラブツーリズム
- 口臭い対策2秒もいらぬ www.w-direct.jp
- 主人の臭かった口臭も、便臭も今は…さて、たった1秒の口臭対策とは？
- 2013年GW《沖縄特集》okinawa.travel
- GW連休を沖縄で過ごす方は必見です！沖縄観光GWプラン満載。沖縄トラベルナビ
- 伊藤久右衛門／母の日ギフト特集 www.itohkyuemon.co.jp
- 人気の京都老舗抹茶スイーツ&フラワーギフトが満載【早割&送料無料】4/25まで

関連ニュース

- 【特集】免疫力アップで健康維持
- 【特集】快進up!が「ガイシャ」を要する
- 【アクセスランキング】今、1番の注目記事と写真は
- 【時事ドットコム動画】最新の話題や車・航空機、水着ファッションショーなど盛りたくさん！
- 安倍首相が硫黄島訪問＝「戦争繰り返さぬ」
- 安倍首相の硫黄島訪問に同行＝新藤総務相
- 安倍首相の硫黄島訪問を発表
- 安倍首相、14日に硫黄島訪問



社会

- 04/21 11:00 82歳、1800万円詐欺被害＝兵勇隊い「仕事で必要」-愛知県警
- 04/21 10:40 酒気帯び事故の医師逮捕＝千葉県警
- 04/21 00:57 南海に9～11時間＝中国公船2隻-沖縄・尖閣沖
- 04/20 20:56 A級戦士も出し3枚目＝ソフトにプロ負け越す-将棋王牧野5期
- 04/20 19:30 トキ2組目ペア。新たにひな＝趣不在、雄が2羽落て-環境省
- 04/20 18:48 LEDで光のアート＝眉山や川に55作品-徳島
- 04/20 16:26 中村文則さん受賞添す＝LAタイムズ文学賞
- 04/20 16:15 電子書籍、利用者7%＝「使わない」が7割-時事通信調査
- 04/20 11:30 動物検疫官で1等陸奥逮捕＝民営の玄関添す-千葉県警
- 04/20 09:12 瓦落界、安全PRに懸命＝茨城島地震で落下多発-兵庫
- 04/20 09:25 京都新聞に賠償命令＝西陣曲帯の記事めぐり-京都地裁
- 04/19 22:51 比類前2世に国籍認め＝日本人父「重婚」で初-東京高裁
- 04/19 22:36 千葉で震度4
- 04/19 22:16 「人から人」限定発生も＝大流行「否定できず」-鳥インフル、リスク初評価・感染研
- 04/19 22:01 BSE全頭検査、終了へ＝都道府県に要請-厚労・農水省
- 04/19 22:00 ストロシウム「運ばず百年」＝東電、汚染水漏れて処理
- 04/19 22:00 監獄容疑で5人逮捕＝神戸港遺体、殺人でも捜査-兵庫県警
- 04/19 21:59 大町町元課長ら逮捕＝学校改編で横収容容疑-佐賀県警
- 04/19 21:44 がれき処理なく交付金＝100団体に100億円超-環境省
- 04/19 20:40 アジア文化交流懇話会初代会